2013年度（H25）第1回　内部評価委員会の結果

１．内部評価委員会の概要

2013年度第1回内部評価委員会においては、港湾空港技術研究所理事長をはじめとする研究所役職員で構成する委員により、2012年度に終了した研究実施項目及び研究テーマの事後評価、2013年度の特定萌芽的研究（追加分）の採用候補の選定などを行うものである。評価は、研究テーマ（全9テーマのうち7テーマ）、研究実施項目（12件、うち特別研究3件）、特定萌芽的研究（追加応募4件）について行われた。

２．内部評価委員会の結果

２．１　テーマ内評価会の開催状況

内部評価委員会に先立ち、研究テーマ毎にテーマ内評価会を開催し、2012年度の研究成果について報告、とりまとめを実施した。

表－１　テーマ内評価会の開催状況

研究分野		研究テーマ		開催日時
1	安全・安心な社会を形成するための研究	1A	地震災害の防止、軽減に関する研究	4月25日（木）10:00～11:30
		1B	津波災害の防止、軽減に関する研究	4月2日（火）13:00～15:45
		1C	高波・高潮災害の防止、軽減に関する研究	4月22日（月）13:00～15:00
2	沿岸域の良好な環境を保全、形成するための研究	2A	海域環境の保全、回復に関する研究	4月26日（金）15:00～17:45
		2B	海上流出油・漂流物対策に関する研究	4月23日（火）13:00～15:00
		2C	安定的で美しい海岸の保全、形成に関する研究	4月24日（水）11:00～12:00
3	活力ある経済社会を形成するための研究	3A	港湾・空港施設等の高度化に関する研究	4月16日（火）13:00～15:00
		3B	港湾・空港施設等の戦略的維持管理に関する研究	4月16日（火）10:00～12:00
		3C	海洋空間・海洋エネルギーの有効利用に関する研究	4月22日（月）13:00～14:20

２．２　内部評価委員会の開催状況

①　開催日時

2013年5月28日　10:00～17:00
2013年5月29日　9:45～16:00

②　評価対象

研究テーマ（全9テーマのうち7テーマ）
研究実施項目（2012年度終了12件）
うち特別研究（2012年度終了3件）
特定萌芽的研究（2013年度追加分応募数4件）

③　出席者

委員長　高橋理事長
委　員　福田理事、中村研究主監、西本統括研究官、荒井企画管理部長、
　栗山特別研究官、山崎特別研究官、高橋特別研究官、菅野特別研究官、
　松本特別研究官、中野特別研究官、下迫海洋研究領域長
オブザーバー　小島監事、大石監事
事務局　山谷研究評価官、小澤企画課長、亀割係長、寺本係員

２．３ 研究テーマ別評価結果

各研究テーマリーダーが、2012年度の研究テーマの研究成果について説明し、その後2012年度に終了した研究実施項目について担当研究責任者から説明が行われ、委員会委員により評価が行われた。

評価対象となる7テーマの評価結果は表-2の通りである。総合評価では、研究テーマ１Ａ、１Ｃ、２Ａ、３Ａ，３Ｂが「高い」と評価され、研究テーマ１Ｂ、２Ｃについては「やや高い」と判定された。

表－２ 研究テーマの内部評価の判定結果

研究テーマ		研究成果の妥当性			総合評価
		目標の達成度	成果の公表	成果の活用	
1A	地震災害の防止、軽減に関する研究	高い	適切	高い	**高い**
1B	津波災害の防止、軽減に関する研究	やや高い	ほぼ適切	やや高い	**やや高い**
1C	高波・高潮災害の防止、軽減に関する研究	高い	適切	高い	**高い**
2A	海域環境の保全、回復に関する研究	高い	適切	高い	**高い**
2B	海上流出油・漂流物対策に関する研究	（評価せず）			
2C	安定的で美しい海岸の保全、形成に関する研究	やや高い	ほぼ適切	やや高い	**やや高い**
3A	港湾・空港施設等の高度化に関する研究	高い	適切	高い	**高い**
3B	港湾・空港施設等の戦略的維持管理に関する研究	高い	適切	高い	**高い**
3C	海洋空間・海洋エネルギーの有効利用に関する研究	（評価せず）			

２．４　研究実施項目（特別研究含む）の評価結果

2012年度に終了した研究実施項目は12件であり、評価の結果は、総合評価については7件が「高い」と判定され、残り5件が「やや高い」と判定された。

このうち特別研究の3件については、研究テーマ２Ａの「沿岸生態系の保全・回復とＣＯ2吸収、および閉鎖性海域の環境改善に関する研究」が「高い」と判定され、研究テーマ１Ｂの「遠心力場における水・地盤・構造物の相互作用に関する実験技術の構築（特別研究）」「港湾の津波災害･復旧における津波複合被害想定技術の開発」がともに「やや高い」と判定された。

表－３　研究実施項目（特別研究含む)の評価結果

番号	研究実施項目名	研究成果					研究管理			総合評価
		研究成果の達成度	学術上の成果のレベル	実用上の成果のレベル	成果の活用のレベル（将来性を含む）	研究ポテンシャルの向上	問題点の有無	問題点の把握とその対応	問題点に対する改善策の把握	
1	1A-1001-キ-232 平成23年度東北地方太平洋沖地震のような巨大地震に適応可能な照査用地震動設定手法の開発	高い	高い	高い	高い	高い	ない	適切	適切	**高い**
2	1B-1001-キ-234 遠心力場における水･地盤･構造物の相互作用に関する実験技術の構築(特別研究)	やや低い	やや低い	やや高い	やや高い	やや高い	ややある	ほぼ適切	ほぼ適切	**やや高い**
3	1B-1002-オ-400 港湾の津波災害･復旧における津波複合災害想定技術の開発（特別研究）	やや高い	やや高い	高い	高い	高い	ややある	ほぼ適切	ほぼ適切	**やや高い**
4	1C-1001-オ-152 数値波動水槽を用いた港湾外殻施設の性能照査手法の構築	やや高い	高い	高い	やや高い	高い	あまりない	ほぼ適切	ほぼ適切	**高い**
5	2A-0901-キ-112 沿岸生態系によるCO2吸収量の定量化とその強化に関する調査および実験（特別研究）	高い	高い	高い	高い	高い	ない	適切	適切	**高い**
6	2A-1001-キ-212 干潟生態地盤学の展開による生物住環境診断チャートの作成	高い	高い	高い	高い	高い	ない	適切	適切	**高い**
7	2A-1002-オ-114 内湾域における高含水比底泥挙動のモデル化に関する研究	高い	高い	やや高い	高い	高い	あまりない	適切	適切	**高い**
8	2C-1001-カ-114 長期変動特性を考慮した砂浜の維持管理設計法の開発	やや高い	やや高い	やや高い	やや高い	やや高い	ややある	ほぼ適切	ほぼ適切	**やや高い**
9	3A-1001-カ-214 鉄鋼スラグ等を杭材とした杭式改良地盤の安定性の評価	やや高い	やや高い	高い	高い	やや高い	あまりない	ほぼ適切	適切	**やや高い**
10	3A-1002-オ-216 重力式岸壁の増深工法に関する研究	高い	高い	高い	高い	高い	あまりない	適切	適切	**高い**
11	3A-1003-オ-312 スーパー高規格コンテナターミナルの評価に関する研究	高い	やや高い	やや高い	高い	高い	あまりない	ほぼ適切	ほぼ適切	**やや高い**
12	3B-1001-オ-500 非破壊試験技術の活用による港湾構造物の点検診断･モニタリングの高精度化に関する検討	やや高い	高い	やや高い	高い	高い	ない	適切	適切	**高い**

２．５ 特定萌芽的研究（追加分）の評価結果

特定萌芽研究は、将来研究所が取り組む可能性がある萌芽的研究であり、2013年度の充当可能と見込まれる研究費を勘案の上、特定萌芽的研究の候補を選定する。

既に、昨年度末に開催された2012年度第２回内部評価委員会において、2013年度の特定萌芽的研究2件「海水の圧縮性と地殻弾性を考慮した新しい津波伝播計算手法の開発」「ジオケミカルアナリシスによるアスファルトコンクリートの熱および紫外線劣化評価手法」を選定している。

今回は、2013年度追加分として特定萌芽的研究を所内公募し、応募があった4件の中から、内部評価委員会で評価した結果、表－４の通り「イメージベースモデリングを援用した構造体コンクリートの品質評価技術」「海洋空間での発電を想定したシート型太陽電池の耐久性に関する研究」の２件を選定した。

表－４ 特定萌芽的研究の評価結果

番号	研究項目名	所属T 担当者名	得票数	理由等
1	浚渫土から発生する悪臭の測定とその対策に関する研究		3	・浚渫土の利用促進は重要である。 ・臭気の分析、定量化と対策との関連性はあるのか。 ・人に優しい研究。
②	イメージベースモデリングを援用した構造体コンクリートの品質評価技術	構造研究領域 構造研究T 岡崎　慎一郎	8	・発展性がある。 ・微視的物質移動→マクロ物性 ・将来的に維持管理・点検に有効。 ・斬新。 ・将来的に劣化予測に繋がることを期待。 ・研究目的が明確。
3	地震動による累積損傷を受けた地盤の地震後変状予測手法		3	・萌芽研究というより、研究実施項目そのもの。 ・緊急に解明すべき課題である。 ・インハウスでプログラムコードを組める貴重な人材。
④	海洋空間での発電を想定したシート型太陽電池の耐久性に関する研究	構造研究領域 材料研究T 与那嶺　一秀	5	・研究テーマ3C研究推進に繋がる可能性。 ・波力発電等との組み合わせが期待できる。

○印 ： 採用

２．６ 総括審議

１）2012年度の研究エフォートについて

2012年度の研究エフォートのとりまとめ結果について次の通り報告が行われた。

① 2012年度において研究者が「研究の実施」と「研究の管理・支援」とに充てる各々のエフォート合計を事後（実績値）で比較するとほぼ60対40で推移しており、2012年度も同様であった。

②「研究遂行の管理」は、全体的な傾向として、「研究遂行の管理」が12%前後、「研究のための環境創出」は8%、「行政の支援」は、10%程度、「成果の普及」は、6～7％程度で推移しているといえる。

③ 「研究の実施」において重点研究課題の研究エフォートの割合は2012年度（実績値）で96.5％であり、ほとんどの研究実施項目が重点研究課題となっている。

以上